

令和 5 年 6 月 3 日現在

機関番号：32680

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K22260

研究課題名（和文）ノルウェーの幼児教育における男女平等に向けたアファーマティブ・アクションの研究

研究課題名（英文）Research on Affirmative Action for Gender Equality in Early Childhood Education in Norway

研究代表者

松田 こずえ（Matsuda, Kozue）

武蔵野大学・教育学部・講師

研究者番号：70884047

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究を通し、以下の点が明らかとなった。(1)ノルウェーは、ジェンダー平等社会への変革の過程で子どもや幼児教育への着目があり、幼児教育において公平な社会を実現するための多くの政策上の取り組みがあった。(2)発行年の異なる幼児教育カリキュラムに記載された内容を通時的に検討したところ、ノルウェーでは、幼児教育には公平な社会の実現のために果たすことのできる役割があり、就学前の幼児期からの男女平等教育等、公平な社会に向けた教育的な取り組みの有効性が強調されていた。(3)子どもだけでなく保育者および保護者の権利を尊重し、ジェンダー平等や多様性を尊重する社会を幼児期に経験することが重視されていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、幼児教育における男女平等教育や多様性の尊重に向けた教育政策の具体的な内容の変遷について、先駆的な取り組みをしているノルウェーからの示唆を得られた点にある。公平な社会を創造するためには、固定的な性別役割分業意識を持つ前の幼児期における教育に着目し、子ども、保育者、保護者それぞれの多様性と権利を尊重した幼児教育をすることが重要であると考えられていたことが明らかとなった。日本では、男女平等および多様性の尊重に向けた社会の変革が求められているが、幼児教育における実践についての研究は充分とはいえない。したがって、本研究が日本の社会変革に向けた幼児教育の発展に寄与するものとなりうる。

研究成果の概要（英文）：Through this study, the following points became clear.

(1) Norway's focus on children and early childhood education in the process of transforming to a gender-equitable society has led to many policy initiatives to achieve an equitable society in early childhood education. (2) A diachronic review of the contents described in early childhood education curricula from different years of publication showed that in Norway, early childhood education has a role it can play in achieving an equitable society, and the effectiveness of educational initiatives for an equitable society, such as gender equality education from preschool age, was emphasized. (3) There was an emphasis on respecting the rights of children as well as their caregivers and parents, and on experiencing in early childhood a society that respects gender equality and diversity.

研究分野：保育学

キーワード：男女平等 保育者のジェンダーバランス ジェンダー ノルウェーの幼児教育 男性保育者

1. 研究開始当初の背景

SDGs (持続可能な開発目標)の17の目標の中に挙げられているように、世界的に幼児教育やジェンダー平等への関心の高まりがある(日本ユニセフ協会 2019)。ノルウェーは、2019年のジェンダーギャップ指数(世界経済フォーラム)の高さにおいて、153か国中第2位であり、男女共に労働、育児を担う男女平等社会である。

ノルウェーでは1970年以降、労働政策、育児政策だけにとどまらず、幼児教育においても段階を追って積極的な男女平等に向けての取り組みが実施されてきた。政策上の取り組みを示すものとして、保育施設法、ナショナルカリキュラム、保育施設の男女平等のための小冊子等、多くの政策文書が発行された。その背景には、アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)を持つ前の幼児期への着目があり、男女平等社会実現に向けて幼児教育が果たすことのできる役割への期待があった。

幼児期から男女平等意識を醸成する幼児教育の在り方について示すために、それらの政策文書の成立の背景や審議の過程、保育施設での保育者による実践の動向、保育者の意識を多面的に分析する必要があると考えられ、本研究の必要性があると考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ノルウェーの幼児教育における男女平等社会実現に向けたアファーマティブ・アクションの内容と変遷、及び実践における具体的な取り組みの内容を明らかにし、男女平等社会への変革が喫緊の課題である日本において、幼児期から男女平等意識を醸成する幼児教育の在り方への示唆を得ることである。

具体的には、以下の4つのリサーチクエスチョンを設定した。1点目はノルウェーの保育施設における公平性に向けた教育政策における1970年代以降の変遷、2点目は保育施設における具体的な実践の内容と課題、3点目は保育者に関わる法律やシステム、男女平等及び公平性醸成に向けた保育についての保育者の考え、4点目は主に保育施設における子どもの権利および親の権利に関する視点について明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

研究 幼児教育政策における男女平等に向けたアファーマティブ・アクションの検証

目的: 文献調査とインタビューにより、男女平等に向けた政策文書が発行された背景や経緯を明らかにする。

研究 保育者の実践における男女平等に向けたアファーマティブ・アクションの検証

目的: 文献調査と保育者へのインタビューを通し、実践における男女平等に向けた取り組みを明らかにする。

方法 ノルウェーを調査訪問し、研究 の文献の第二次調査及び、研究 -2)、研究 -2)の個人インタビューを実施する。文献の第二次調査は、政府発行文書や国会報告書、新聞記事等を含む。研究 のインタビューは、ノルウェー政策立案に関与した研究者を研究協力者として実施。また研究 のインタビューは、スノーボールサンプリングにより協力依頼した保育施設施設長および保育者に実施する。半構造化インタビュー(計10名、各20~30分間)を実施したデータは、逐語録に起こし、質的分析方法を用いて内容分析を行う。

4．研究成果

本研究を通して、以下の4点が研究成果として導かれた。

(1) 主に文献調査によりノルウェーの国の概要や幼児教育に関する政策、および1995年以降、3度にわたる幼児教育カリキュラムの改定の動向の分析を通してその内容や背景が明らかとなった。ノルウェーは男女平等の進む国として知られているが、建国当初から男女平等を含む公平な社会が実現していたのではない。1960年代までは男性中心の性別役割分業意識が強い保守的な社会であったが、公平な社会の実現を目指して男女平等や公平性を重視した政策をとり、その結果として男女平等社会へと変革した。また1970年代以降、その変革の過程でノルウェーは、子どもに関する政策の実施を推進するために子ども家族省を作り、保育施設数を増やすなど、社会における子どもの存在を重視する政策をとってきた。男女平等をはじめとする公平な社会の実現を目指す上で幼児教育に大きな注目が集められ、そのような政策上の取り組みの背景に社会の変革と幼児教育を結び付ける視点があることが示唆された。

(2) 2017年版幼児教育カリキュラムの内容および特徴に着目して男女平等を含む公平性や多様性の尊重と政策の関係を分析し、以下のことが示された。幼児教育およびICT教育における保育施設と小学校との連携および多様性を尊重する幼児教育での社会の平等化の観点からのカリキュラムの運用が目指され、保育施設での幼児教育が子どもの公平性への意識や社会の平等化を促す役割を担うことが意図されていることが明らかとなった。

(3) ノルウェーの保育者を取り巻く制度や状況について、関連する公的資料および、ノルウェーの保育者7名および幼児教育関係者1名に対して実施したインタビューの結果を分析した。保育者養成課程の規定および保育者のキャリアアップに関する制度の検討からは、公平性、民主主義の重要性、および多文化共生への対応等の社会状況が内容に反映されていること、また保育者が公平性への意識の子どもへの伝え手として政策上重視されていることが明らかとなった。保育者へのインタビューの結果からは、幼児の公平性意識を育てるための政府の方針を保育者が理解し、保育の中で実践していることが明らかとなった。

(4) 親の保育参画に関連して、育児休業制度や保育施設法、その他の公的な資料を分析した。その結果、保育施設と親の強固な連携をとるための方法として保育参画が位置付けられていたこと、および父親の育児休業制度の充実など父親の役割が重視され、男性と女性の意識を公平で平等な意識に変えていくことが目指されていたことが明らかになった。

またノルウェーにおける子どもの権利条約批准後の国の取り組みの様子および、子どもオンブズマンの活動状況を分析した。その結果、幼児期から子どもの意見表明権が尊重されており、子どもが自分に関係することについて意見を述べ、社会に参加する機会を持つことが重視されていたことが明らかとなった。

本研究を通して、ノルウェーではこれからの社会を担っていく存在として幼児期の子どもの存在への着目があり、子どもに関する政策上の取り組みが積極的に実施されてきたことが示された。またその具体的な取り組みの内容が明らかとなった。社会を変革する際に、保育施設における幼児教育が果たす役割への期待があり、幼児教育カリキュラムの内容や保育者からの働きかけを通して、子どもが公平性や多様性の尊重への意識を持つことが目指されてきたと指摘することができる。すなわちノルウェーの幼児教育では、子どもも親も保育者もそれぞれの多様性が尊重され、公平に扱われ、平等に社会に参加する機会を持つことが意図されてきた。

本研究の意義は、ノルウェーの幼児教育における具体的な実践や取り組みの分析を通じて、平

等で公平な社会の実現のために幼児教育の担う役割が重視され、自らが関わることに主体的に参加する権利が尊重されていることを明らかにしたことにある。

日本では、男女平等及び多様性の尊重に向けた社会の変革が喫緊の課題である。しかし保育施設における男女平等および多様性の尊重に向けた教育における研究は充分とはいえず、本研究が今後の日本の幼児教育の持つ可能性を示唆する一助となるのではないか。今後は、本研究で明らかになったことをもとに、ノルウェーの幼児教育における子ども、保育者、保護者の「参加」に関し、政策上の取り組みや実践、保育者と保護者の意識等についてさらに研究を進める必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 松田こずえ	4. 巻
2. 論文標題 ノルウェーの幼児教育における公平な社会に向けた取り組みに関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学博士学位論文	6. 最初と最後の頁 1-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田 こずえ	4. 巻 28
2. 論文標題 ICT教育における幼小連携に関する研究 ノルウェーの取り組みに着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際幼児教育研究	6. 最初と最後の頁 137～153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34567/iaece.28.0_137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松田こずえ	4. 巻 58
2. 論文標題 保育者のジェンダーバランスに関する研究 1997年から2017年までのノルウェーの保育政策の分析から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育学研究	6. 最初と最後の頁 179-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松田 こずえ	4. 巻 27
2. 論文標題 ノルウェーの保育カリキュラムの改革動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際幼児教育研究	6. 最初と最後の頁 123～140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34567/iaece.27.0_123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松田こずえ	4. 巻 22
2. 論文標題 グローバル社会における保育の『言葉』と保育者に関する研究 - 2016年から2018年までのノルウェー英字新聞記事と政策文書に着目して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間文化創成科学論叢	6. 最初と最後の頁 165-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田こずえ	4. 巻 8
2. 論文標題 絵本にみるジェンダー意識と人間関係 に関する研究 - ノルウェーと日本の絵本 の比較から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学子ども学研究紀要	6. 最初と最後の頁 23 - 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田こずえ	4. 巻 10
2. 論文標題 男性保育者のジェンダー平等意識に関する一考察 ノルウェーにおけるインタビュー調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学子ども学研究紀要	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田こずえ	4. 巻 13
2. 論文標題 ノルウェーの幼児教育における保育者の養成およびキャリアアップ制度についての一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武蔵野大学教育学論叢	6. 最初と最後の頁 95-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田こずえ	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 文化的多様性を尊重する保育についての一考察 ノルウェーの保育施設での取り組みに関する検討からー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フェリシアこども短期大学国際センター紀要	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 松田こずえ
2. 発表標題 幼児期の男女平等意識の醸成に関する研究 ノルウェーの幼児教育関係者へのインタビューの分析からー
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kozue Matsuda
2. 発表標題 Cultural Differences in the attitudes of childcare workers toward fostering gender equality awareness among children
3. 学会等名 EECERA (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田こずえ
2. 発表標題 ノルウェーにおける多様性を尊重する保育に関する研究 保育カリキュラムとその運用に着目して
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田こずえ
2. 発表標題 ノルウェーの保育施設における 親の保育参画を支える仕組みに関する研究
3. 学会等名 日本教育社会学会第72回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田こずえ
2. 発表標題 ノルウェーにおける保育者のキャリアアップについての研究
3. 学会等名 日本保育学会第75回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関